

25PB-pm279

薬学部学生における一次救命処置のスキル評価

○丸山 桂司¹, 竹内 保男², 金子 一郎², 渡辺 京美³, 横山 正巳⁴, 秋山 暢² (¹帝京大薬, ²帝京大医, ³帝京高看, ⁴帝京大医療)

【目的】心室細動などの心停止では、迅速な心肺蘇生の開始とその質が傷病者の予後に大きく影響する。薬剤師も医療人の一員であり、学部教育の段階から正しい心肺蘇生法 (CPR) や自動体外式除細動 (AED) の使用法などを修得する必要がある。また、薬学教育モデル・コアカリキュラム (平成 25 年度改訂版) においても「一次救命処置を説明し、シミュレータを用いて実施できる」との SBO が追加された。そこで、我々は薬学部 1 年生および 4 年生を対象に一次救命処置実習を実施し、学生の習熟度の評価を行ったので報告する。【方法】本学に設置された三学部合同シミュレーション教育委員会において、JRC 蘇生ガイドラインの医療従事者向けのプロトコールに基づいた授業を作成した。また、学生指導を行う教員を養成する目的で、一次救命処置 (BLS) 指導者講習会を開催した。対象学生は 1 年生 333 名、4 年生 294 名であり、シミュレータは、学生 4 名に対し 1 台とした。指導者は 1 名あたり 1~2 グループの学生を担当した。シミュレータは、レサシアン with QCPR を用いた。【結果・考察】学生の手技に対するフィードバックは、指導教員の目視による確認に加え、SimPad スキルレポートを併用して行った。これにより、目視では確認が困難であった胸骨圧迫の深さや換気量などをリアルタイムに把握することが可能となり、手技の正確性を客観的な数値として認識することができた。また、実習終了後の学生アンケートにおいても、「詳しい説明により正しい手順について理解することができた」とのコメントが多数あった。したがって、SimPad スキルレポートを用いることにより、学生の手技習熟度を適切に評価するだけでなく、保存したデータを呼び出すことにより質の高いデブリーフィングの実施に有用であると考えられた。